

住民主体の健康寿命延伸と専門職支援のあり方 ～医療ソーシャルワーカーの立場から～



オレンジホームケア
クリニック

Orange Home-Care Clinic

2019.9.5

西出 真悟



オレンジホームケア
クリニック

Orange Home-Care Clinic

福井県福井市
24時間365日の在宅医療を
提供する「在宅療養支援診療所」
2011年2月開設

常勤医師5名、非常勤医師4名、看護師16名、社会福祉士4名
作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士、臨床心理士
ケアマネジャー、介護福祉士、相談支援専門員、栄養士
臨床宗教師、プロデューサー、ミュージシャン
医療事務、医療クラーク、コミュニケーションスタッフ
院内多職種スタッフがフラットに繋がっているチーム



在宅患者数 約310名

年間看取り 約140名

小児患者数 約35名



在宅医療を通して

「住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きて行く」
ことをお手伝いします。

生まれてから旅立つまで、
人は人と支えあいながら生きています。
家族、友達、同僚などなど。

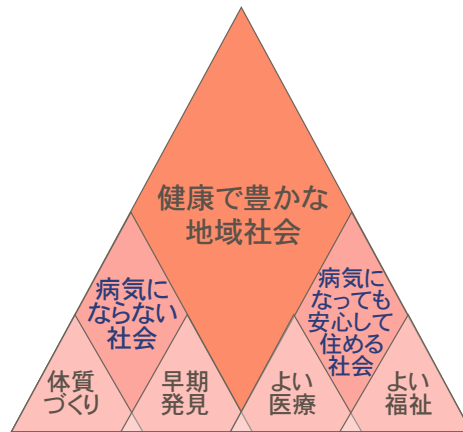
あなたが元気で笑顔だと、あなたの周りの人も
幸せになる。

たくさんの"あなたを"幸せにすることで、
地域に活気があふれて行く。
私たちは、そう願っています。

2011

オレンジが目指す「まちづくり」とは

地域で過ごすみんなが、元気に幸せに。
私たちの活動の最終形は「まちづくり」です。
大きなまちの中での自分の位置を謙虚に探りながら、
プロとしての自覚と責任を持って動き続けたいと思います。



家庭医の専門性



みんなの保健室

まちかどで、健康に関する不安を気軽に相談できる【みんなの保健室】
どこに相談したらいいかわからない、そんな想いを聞いてまちにつないでいくことで、
誰もが「安心」して暮らせるようになることが目的です。





出張型保健室



イベント開催でまちと繋がる



オレンジホームケアクリニック
Orange Home-Care Clinic



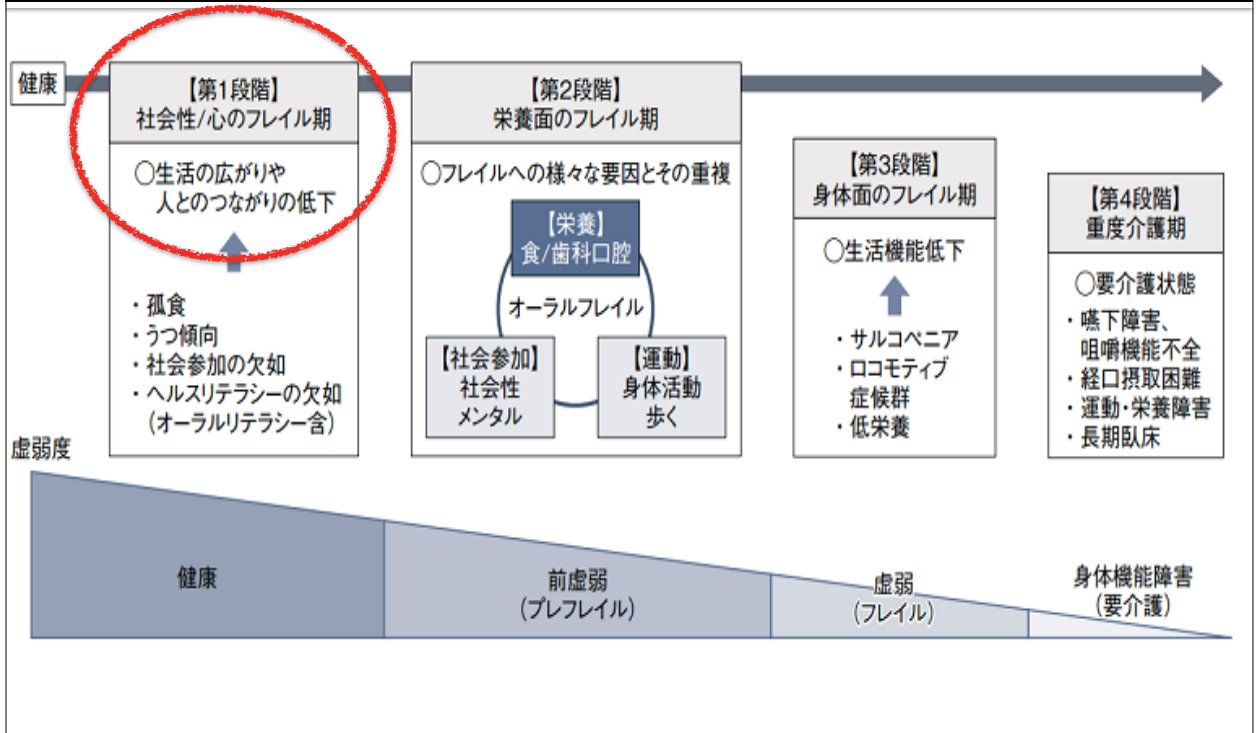


住民にとって、
使いやすい場所、空間



住民すべてを対象

ソーシャルフレイル





みんなで昼ごはん

カレーライス一緒に食べませんか？

毎月最終週の金曜開催 12時～15時

*なくなり次第終了とさせていただきます。



食事を通して地域のつながりを

向こう三軒両隣。ご近所同士のお付き合いはいざという時の安心につながる大切な存在ではないでしょうか。近年薄れつつあると言われる人と人の関わりを、みんなで昼ごはんを食べることをきっかけにちょっと見つめ直してみたい。住み慣れた場所で最期まで自分らしく暮らしていくためのコミュニティ。日常のちょっとした喜びや不安を気軽に分かち合える場でありたいと思います。



料金
 おとな **300円**
 こども **100円**
 *お代わり自由

会場:みんなの保健室 宝永
 わがさん隣(福井市宝永3丁目25-8)

当施設に専用駐車場はございません。
 お車でお越しの際は近隣のコインパーキングにお停めいただくなどご協力のほどよろしく願いたします。



<お問い合わせ>



みんなの保健室

平日午前10時～午後3時

080-3019-9649

(担当:林田,高村,多田,増永)

夜も保健室

夕方や夜にもつながりを求めている人がいる。

- 学校帰りの高校生
- 塾帰り、塾に行くまでの小学生 等





オレンジホームケア クリニック Orange Home-Care Clinic

2011年2月1日開設
2013年2月1日医療法人化
2014年5月より以下3事業開始
訪問看護ステーション
訪問介護事業所
居宅介護支援事業所



福井県福井市(人口27万人,高齢化率28%)
医師13人体制で24時間365日の在宅医療を提供する
在宅療養支援診療所 在宅患者数約300名,年間在宅看取り数約100名

2012年 厚生労働省・在宅医療連携拠点事業(全国105施設)
2015年 厚生労働省・人生の最終段階における相談支援事業(全国5施設)
2016年 内閣府 経済・財政一体改革推進委員会 第15回 社会保障ワーキンググループ(紅谷)
(人生の最終段階の医療についてプレゼンテーション)
2017年 厚生労働省・人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会 構成員(紅谷)

2013年～ 劇を使った在宅医療多職種連携実践研修会を全国で開催
(これまで13府県にて42回開催)
2015年～ 専門職・一般市民向けに「地域包括ケア」について知ってもらう劇講演を開始
(これまで5県にて13回開催)

Mission: 在宅医療を通して、地域の人々がHappy!に過ごし続けられる「まちづくり」
(地域包括ケアシステムの構築)



みんなの保健室

2013年7月 福井駅前新栄商店街内に開設
(東京新宿・暮らしの保健室-秋山正子代表-を参考に、
福井らしい“保健室”を模索した。
新栄商店街を中心にまちづくりを行う仲間からの
後押しで構想からわずか4ヶ月で開設に至った)



日常生活の中で気軽に立ち寄りなんでも相談できる“集い場”として、体・こころ・暮らしの相談だけでなく、誰かと話したいと立ち寄る方、ひとやすみする方など、年齢性別問わず多くの方が利用。
開設2年目の年間利用者 約1800名

2015年1月～ ダイハツとのコラボ開始
在宅医療におけるクルマの使用され方の研究
地域包括ケアシステムにおける企業の役割について討議

2015年9月 福井市永永に2番目となる「みんなの保健室 supported by ダイハツ」を開設
2017年4月 福井市田原、オレンジ拠点の1階に3つめの保健室開設

「みんなの保健室」の目的を共有し名称と
ロゴマークの使用を希望する方(個人,団体)とは
“のれん分け”として連携。
現在、敦賀市・石川県輪島市の2カ所に
のれん分けした保健室がある。

Mission:
地域における主人公である“人”や“お店”“組織”の
繋がりから生まれる安心感を地域で育む居場所づくり





医療ケアが必要な重度心身障害児者に特化した日中利用施設
事業名:児童発達支援事業、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、生活介護、相談支援事業

2012年4月
高校卒業後の通える場所がなくなった心介くんのために「心介くんだけが週3回通う施設」として実験的に開設
→すぐに地域中にニーズがあることがわかる(2019年5月現在 登録30名)

2015年4月 一般社団法人化
7月～8月 軽井沢キッズケアラボ開催
2016年4月～7月 熊本地震支援 (避難している医療ケア児へのサポート、医療ケア児施設開設支援)
7月～8月 軽井沢キッズケアラボ2016開催
2017年7月～8月 軽井沢キッズケアラボ2017開催
2018年7月～8月 軽井沢キッズケアラボ2018開催
2019年7月～8月 軽井沢キッズケアラボ2019開催予定

医療法人との濃密な連携(診療面・ケア方針・看護師の配置)により、安全・安心でかつ成長を視野に入れた活動ができている
重心児施設として注目されている

Mission: ①インフラレベルでの医療サポート
②本人と家族の成長を見つけ出すこと
③地域をつくっていくこと

高齢化社会への対応策のように言われる“地域包括ケア”であるが
病気の付き合い方として医療モデル(病気は隔離して治さる)から
生活モデル(病気と付き合いながら幸せに暮らしていく)への
変化が求められており、結果的には地域に暮らす全ての人・企業が
含まれるシステムである。まさに「まちづくり」といえる。
障がいを持っていても子どもたちがHappy!に暮らしていける地域を
創ることは、高齢者や認知症にも対応できるまちづくりである。



こんな初めて!新しい家族旅行体験

高千穂から軽井沢リゾートとして、国が関わる大規模なリゾート地、軽井沢。そんな軽井沢には、医療ケアが必要なキッズのための宿泊施設やスペースを積極的に設けています。「特別な空間」と呼ばれるほど心身を癒す特別な空間と、専門スタッフによる医療サポートで、本人が安心して過ごせ、家族もゆったりと楽しむことができます。ぜひ、忘れられない夏の思い出を...



そろそろ、みんなで軽井沢に行こう。

軽井沢キッズケアラボって何?

★医療ケアが必要な障害をもった子どもたち(キッズ)のためのスペースです。

福井県福井市で、地域を支える在宅医療をバックボーンに、医療ケアが必要な子どもたちとその家族をサポートしているチーム「オレンジキッズケアラボ」。

私たちは今年の夏、佐久総合病院、軽井沢病院とコラボして、キッズの旅行を長野県軽井沢でサポートするスペース「軽井沢キッズケアラボ」を、夏期限定でオープンします!

■オープン期間

2015年 7月26日(日)

～8月16日(日)

@軽井沢(長野県)



軽井沢に滞在型のケアスペースとして
期間限定でケアラボ(重心児日中活動拠点&
宿泊拠点)を設置

福井のキッズの滞在型旅行の滞在場所として
だけでなく地元・長野のキッズや、東京から
避暑に来ているキッズも対象に受け入れた
※キッズ:医療ケアが必要な重心児

運営は地元の医療者などボランティアが中心

全国の医療・ケアスタッフや、重心児の家族などが参加し、先進事例に学び、交流する“キッズケアサミット2015”も同時開催

Mission:

- ・できないこと探しではなくできること探し
- ・非日常のリゾートで、日常のように“暮らす”体験を元に、障害を持って生きる日常を再考

このプロジェクトに参加した、長野県佐久市の関係者が、翌2016年夏に期間限定のケア施設を設置することが決定した!

2015年より毎年開催



旅行、ではなく「暮らす」ことを目標に滞在する。
“暮らす”とは、朝目覚め、朝食を摂り、その日何するかをみんなで考え、遊び、美味しいものを食べ、昼寝をして、お風呂に入って、安らかな気持ちで眠る…こと。
非日常空間で日常を丁寧に重ねることで
子どもたちも家族も医療者も つながり、成長していく
誰かが誰かをケアしているのではなく、お互いにエンパワメントし合っている姿がそこには
ありました。
地域に暮らす人も巻き込んでいきました。

■子どもたちが地域を変えていく



期間中には毎日のように医ケアキッズが利用するJR。乗り換えや乗車時のサポートがどんどんスムーズに。

カフェのスタッフが「バギー持ち上げるの手伝いますよ」と。あたりまえに軽井沢のカフェで過ごす。



散歩の途中で出会った地元の方々「かわいいわねー」と呼吸器キッズを囲んで。



■子どもたちが親を変えていく

2年半、1度も離れて過ごしたことのなかった母子が初めて離れて過ごしたのは 軽井沢 でした

子どもたちが楽しく過ごす姿が、親を安心させ「私、ランチに行ってきます」と言えるようにさせてくれたのかな、と思っています。



■子どもたちが医療や仕組みを変えていく

3歳・呼吸器の遥永くんの軽井沢一人旅は多くの人を驚かせました。何かしたいと思った佐久の家族たちは地元病院や行政と相談し、地元で事業を立ち上げました。

実は、遥永くんは「座れるようになることはない」と宣告されていましたが、友だちと楽しく過ごしているうちに、座れるようになっていました。





オレンジホームケアクリニック・オレンジキッズケアラボ 熊本支援内容
「熊本・医療ケアが必要な子ども・家族の支援」

派遣日程
2016年4月27日～7月31日（8月1日現在）

派遣人数
医師3名、看護師6名、保育士3名、理学療法士1名、介護福祉士1名、社会福祉士1名のべ123人・日

状況

- 人工呼吸器、痰の吸引など医療ケアが必要な子ども等が、熊本県内外の病院や療育センターに一時的に避難している。また、避難所、車中泊の家族も確認されている。
- 医療的ケアが常時必要なため、自宅損壊確認や自宅復帰作業が困難な状況となっている。

支援概要

- 医療ケア、内部障害などで困っている方々の相談支援
- 入院中の子ども、避難している子どもの医療ケア（付き添い）支援と帰宅に向けた家族支援
- 子どもの療育支援と親のレスパイト支援
- 在宅生活を支える訪問診療、看護、介護の実施
- 医療的ケアが必要な児に対応出来る施設の立ちあげ支援

支援内容

- 4月27日～5月8日 入院中の子どもへの付き添い、キャンプ場での活動支援・療育支援、避難所に向いての活動支援・療育支援、今後の生活についての相談支援
- 5月1日～6月30日 熊本市民病院（機能停止）の構内に、医療ケアが必要な重症心身障害児対応の日中一時支援施設「ことことキッズランド」立ちあげ・運営支援
- 7月1日～ 熊本市内に重症心身障害児対応の児童発達支援・放課後等デイサービス施設「ばんぶきん」立ちあげ・運営支援

非日常の状態(小児・障害+震災)であっても日常(生活=遊び、友だち)を支えると
“子どもらしさ”を取り戻した子どもたちは周囲を笑顔にし、家族や地域を支える姿があった



在宅医療を用いて「その人らしい生活」を支えるチーム【オレンジホームケアクリニック】
そのひとの生活や人生など、背景を理解することで、必要に応じて医療の枠を超えたケアやそっと見守っていくケアなど、柔軟に使い分けて家族全体をサポートしています。医師4名(非常勤2名)、看護師15名、社会福祉士4名、作業療法士、理学療法士、薬剤師、ケアマネジャー、介護福祉士、相談支援専門員、保育士、栄養士、医療事務、医療クラーク、臨床宗教師、ミュージシャン、コミュニケーションスタッフ、プロデューサー、ジェネラルマネージャー
院内多職種スタッフがフラットに繋がっているチームで24時間365日体制で在宅医療を提供
約300名の在宅患者を在宅で診療。年間約110名を自宅で見守っている



居宅介護支援事業所【AGING DESIGNERS 日々テラス】
がんや難病、重度心身障害など、在宅療養において医療的なサポートが重要なカギとなる方たちを、医療や介護のワクにとどまらずプランニングしていくチームです。



まちかどで、健康に関する不安を気軽に相談できる【みんなの保健室】
どこに相談したらいいかわからない、そんな想いを聞いて、まちにないでいくことで、誰もが「安心」して暮らせるようになることが目的です。



医療的ケアが必要なキッズ、家族と一緒に、新しいことにもどんどんチャレンジするチーム【オレンジキッズケアラボ】
キッズひとりひとりの成長や強みを発見して、本人や家族の生き方、日々の暮らしの中での過ごし方を実現していくのが目的です。



訪問看護ステーション【地域看護ステーション みかんの木】
地域と対話して予防的なアプローチを行う「みんなの保健室」、在宅診療全体をコーディネートする「トータルヘルスプランナー」というアプローチを確立してきたオレンジナースたちがオランダのビュートソルフに刺激をもらって化学反応を起こし誕生しました。予防から看取りまで時間軸を大切に、地域に根ざして教育アプローチも行って、そんなチームを目指します。



外来ベースの地域包括ケア診療【つながるクリニック】
住み慣れた地域で安心して暮らしたい。そのために大切なことのひとつは「健康」です。身体の不調や怪我だけでなく、生活や将来の不安にもじっくりと耳を傾け、一人ひとりにあった過ごし方と一緒に考えていきたいと思えます。地域のかかりつけ医として幅広い診療を心がけ、どんなことでも相談にのれる、そんなクリニックを目指します。



訪問看護ステーション【ライフサポートチーム これがいいのだ。】
日々の診療や「Orange Kids' Care Lab.」の活動を通して、病気や障害によって生活スタイルが変わっても、医療に支配された生活にならないように、その人にとって大切なものや人生の輝きにスポットライトを当てて「その人らしさ」を支えることが最も重要と確信しました。

